

# 週目点



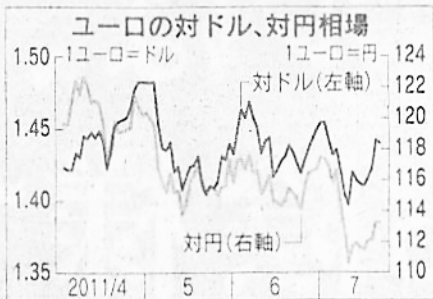
早稲田大学教授

川本 裕子

今週はドイツのフォルクスワーゲン（VW）、フランスのサノフィ・アベンティスなど欧州有力企業が相次いで4～6月期決算を発表する。特に製造業ではユーロ安を背景に海外での売り上げが好調なため、好業績が予想される。

ユーロの為替相場は5月以来、下落基調が続いており、金融市場では先安観が根強い。ユーロ安は日本の輸出企業にとって収益悪化要因だが、ドイツなどユーロ圏主要国では輸出拡大につながり、欧州景気を下支えている。

しかし、良いことばかりではない。問題はユーロ安の原



## ▶ 欧州有力企業・銀行の決算発表(25日～)

# 好業績に影落とすユーロ不安

因である。欧州の債務問題に対する市場の不安がユーロ安を招いている。債務不安はすでにギリシャなどユーロ圏の「周辺国」から、スペインやイタリアなど経済規模がはるかに大きな国へと波及し始めている。対応を誤れば、世界経済に及ぼす影響は非常に大きい。

債務不安は、これらの国に多額の債権を持つ欧州の金融機関の健全性にも影響しかねない。今週はギリシャ向け債権が多いドイツ銀行や、スペインの大手銀行サンタンデーの決算発表も注目される。

先週のユーロ圏首脳会議は、ギリシャへの第2次支援策で合意したが、債務削減を含む抜本的解決には至らず、問題先送りの面も強い。債権者たる金融機関や、納税者によるコスト負担についての合意がなかなか得にくいという難しい事情が背景にある。ユーロ圏「周辺国」の危機がユーロ経済全般への不信につながる事態を全力で阻止すべきだが、道は依然険しい。